

ガーナでチャイルドケア

1. 活動時期 2025年7月13日～8月2日

高校1年 井口 舞衣

2. 利用したエージェント名 Projects Abroad



3. 活動の概要

夏休みを利用して、ガーナにチャイルドケアのボランティア留学に行きました。欧米からの参加者がほとんどで、日本人は私ともう一人しかいませんでした。全員でアクアペムヒルズという都市にホームステイをしながら、平日は毎日現地の小学校に行き、子どもたちに英語で授業をしたり、日本の文化を伝えるといった活動をしました。また広大な草むらの草をすべて手作業で刈るところから始めて、柵を立てて畑を作り、野菜の種を植えたりもしました。わたしたちが帰国してからも、子どもたちが水をあげて野菜を育ってくれている様子をSNSで知り、現地とのつながりを残せたことに喜びを感じています。

4. 感想

生まれて初めてアフリカに行き、ガーナが予想よりも発展していることに驚きました。道路が舗装されていなかったり、お湯が出ないのでバケツに水を汲んで体を洗ったりと、日本と比べれば多少不便な点もありましたが、大きなモールや商店もあり、人々は概ね英語が話せること、またガーナ人はとても明るく、穏やかで親切な人が多いので、ほとんど困ることはなく、3週間を過ごすことができました。しかし、子どもの学習環境については、インフラ含めまだまだ改善されるべき余地がたくさんあると感じました。様々な面で自分なりの課題が見つかったので、来年も必ずガーナに行きたいと考えています。

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

アフリカについて、発展途上国で貧しい国、または治安が悪く危険といったイメージがあるかもしれません。わたしも実際にいくまでは不安な気持ちがありました。しかしガーナに行ってみて得たものや感じたことは、かけがえのない経験となり、本当にやってよかったと思っています。

皆さんも興味を持っている国や地域があったら、ぜひ思い切ってその地に飛び込んで、現地の空気を肌で感じてほしいと思います。きっと想像しているのとは違った世界に出会えるはずです！